

Violin

大津 純子 (Junko Ohtsu)



東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NYを拠点に演奏活動を開始。ジュリアード音楽院在学中に、ジュネス・ミュージカル・インターナショナルおよびカーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。セントルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との協演、リサイタル・プログラム〈The Artistry of Junko Ohtsu〉のパブリックTVネットワークによる全米30都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。国際交流基金派遣にてロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。『マラゲーニャ』、『アメリカ』（1998年、「レコード芸術」誌「室内楽準推薦盤」に選出）、『Prelude to a Kiss』などCD5枚をリリース。近年は、執筆・講演などの分野にも活動の範囲を広げている。2002年、自ら企画・プロデュースする室内楽シリーズ『Good Old Days ～アメリカの“素敵な時代”』を立ち上げ、日本のクラシック音楽シーンの盲点であった“知られざるアメリカ”にスポットを当てた意欲的な好企画として、大きな注目を集める。2004年、イラストレーター・和田誠、ジャズピアニスト・佐藤彦彦と共に、ジャンルを超えて音楽を楽しもうという意図のもと、〈Junko and the Night and the Music〉シリーズを開始。3人の異なるバックグラウンドを活かしたユニークな企画は大好評を得ている。2005年より〈Junko's Heart to Heart concert〉シリーズも年2回展開中。

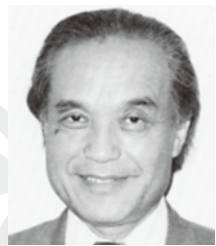
Program

- *ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ長調 作品13:G.フォーレ
Sonate pour Violon et Piano No.1 Op.13 La majeur: Gabriel Fauré
- *詩曲 作品25:E.ショーソン
Poème Op.25: Ernest Chausson
- *美しき夕べ:C.A.ドビュッシー
Beau Soir: Claude A. Debussy
- *パントマイム～バレエ『恋は魔術師』より:M.de ファリャ(コハンスキー編)
Pantomime ~“El amor brujo”: Manuel.de Falla/Kochanski ほか

※曲目は変更になることがあります。

Guest

音楽評論家
濱田 滋郎 (Jiro Hamada)



1935年生まれ。60年頃より翻訳、雑誌への寄稿、レコード解説などの仕事につく。78年より2004年まで、東京芸術大学、桐朋学園大学、東京外国語大学、立教大学、東京大学ほかで非常勤講師を務める。NHKFM放送のクラシックおよび民族音楽の番組にレギュラー出演、89年には教育テレビ「市民大学」講師を半年間務める。88、90の両年、キューバの「ハバナ国際ギター・コンクール&フェスティバル」に審査員、講演者として招かれる。主要著書に「スペイン音楽のたのしみ」（音楽之友社）、「フラメンコの歴史」「エル・フォルクローレ」（ともに晶文社）のほか、訳書多数。現在、日本フラメンコ協会会長（90年より）、スペイン音楽こだまの会主宰（85年より）。「レコード芸術」誌新譜月評（器楽部門）レギュラー執筆者。第3回「蘆原英了賞」受賞。

岡田 知子 (Tomoko Okada)



東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトに留学。声楽の伴奏と器楽アンサンブルを学び、同校を首席で卒業。1977年1月、ベルリン・メンデルスゾーン・コンクール:ピアノ・トリオ部門第1位入賞。同年10月、ジュネーブ国際音楽コンクール:ピアノ・トリオ部門第2位(1位空席)およびスイス特別賞受賞。現在、アンサンブル・ピアニストとして内外演奏家との共演、CD録音、コンサート・プロデュースなど、多方面に活発な活動を続けている。

Piano

Junko's Heart to Heart concert

主催/大津純子室内楽実行委員会 協賛/株式会社 アクセル 協力/NPOえこお、株式会社 アルファマインド

〈会場〉

HILLSIDE PLAZA

- 渋谷より東急東横線で各駅停車にて一駅:「代官山駅」より徒歩3分
- 東急バス 渋71(渋谷駅発～洗足駅行)「代官山駅入口」より徒歩2分
- バス/東急トランセ(渋谷駅発)「ヒルサイドテラス」下車

